

石クリ通信

6月号

植物と薬

事務長 石川 都

最近の本では、斉藤和季「植物はなぜ薬を作るのか」(文春新書)が面白かった。以前から漢方や生薬には関心があったが、本書では、植物が薬の元になる物質を作る仕組みから、それを応用したバイオテクノロジーによる植物成分の人工的生産、さらには今後の植物との共存の可能性まで、実にわかりやすく語っている。

つまようじに柳の枝を使うのは、鎮痛作用のあるサリシンを含む柳の枝が歯痛に効くと昔の人が知っていたからで、京都の三十三間堂は、頭痛持ちの後白河法皇が柳を棟木に使った頭痛封じの寺であること。青酸カリより強い毒性を持つニコチンは、タバコ二、三分分でも一度に吸収されると致死量で、神経を刺激し血圧上昇や眩暈嘔吐を引き起こすが、一時的にはスッキリするので習慣化しやすく、依存性があること。先頃日本で初めてカフエイン中毒の死者が出たが、市販のドリンク剤にもコーヒを上回るカフエインが入っており、コーヒ豆が地面に落ちると、土中に放出されるカフエインにより他の植物の芽生えが阻害されるほど強いこと。現在の抗がん薬にも、植物成分由来のものがかかりあり、それらがさまざまな医薬品開発を先導していること。つまり植物は太古の昔から現在まで、地球を汚さず環境浄化をしながら有用な化学物質を作り出す、非常に高度で理想的な化学工場だが、それは同時に「動かない」植物独自の精密な生存戦略でもある。私たち人類は、この物言わぬ植物に全面的に支えられていると自覚した上で、植物を正しく理解し、上手につき合ってゆかねばならず、そこに宇宙船地球号のすべての生命の命綱がある。

ほぼベジタリアンで、前世は植物だったと確信する私も、この本で植物への敬意と感謝がいっそう募った。

しおり

事務 森 絵里子

図書館で本を借りると、前に借りた人がしおりとして使っていた物が挟まったままになっていたりします。レシートやノートの切れ端なら捨てても良いかな、という気になるのですが、先月借りた本に、施設か病院で撮られたであろう高齢の女性の写真が挟まっていました。手作りケーキと共に満面の笑みで写っていました。いつ撮られた写真かは不明でしたが、借りた本が「マンガ日本の歴史」であつただけに感慨深いものがありました。返却の際に司書さんに忘れものとして伝えたので、お心当たりの方はお問い合わせください☆(借りたのは日立の中央図書館ですが返却したのは多賀の図書館です。)

仕事の合間に・・・

看護師 澤田 彰子

仕事の合間に小さな楽しみがあります。それは、診察室の窓から見える第二駐車場の景色です。四月はタンポポ、その後わた毛の花畑になり、五月はシロツメクサの真っ白なお花畑でした。今の時期はタンポポに似た茎の長い黄色い花(名前不明)です。院長が草を刈った後は見た目にもさっぱりしていて気持ちいいし、スズメやヒヨドリが虫をついばみにきます。草を刈るタイミングで花の種類も少しずつ変わり今度はどんな花畑になるか楽しみです。

空飛ぶ自動車

院長 石川 悟

最近読んだ新聞記事で、空を飛べる車の開発が始まっている由。ドローンなど新しい技術が出てきているので、遠からず実用化されるかもしれません。ではどのような車になるのでしょうか。ヘリコプターを極限まで小さくしたようなもの、ドローンを少し大きくして、一人だけ乗って行けるもの、あるいは通常は道路を走っていて、渋滞になったらプロペラを出して、他の車の少し上を越して行くものなど、色々想像は膨らみます。ただし実用化までにはたくさんの障害を乗り越える必要がありそうです。たくさんさんの車を自由に飛んだら衝突の危険がないか。空に信号を付けるわけには行きません。飛行機は事前に飛ぶ航路も時間も決まっています。管制官が指示を出しています。ヘリコプターは比較的自由に飛んでいるようですが、訓練を受けたプロの操縦士がおり、数も限られています。

パイロットの資格や船舶免許でも大変なのに、空を飛ぶ自動車免許を一般の人が取ろうと考えたらとても現実的ではありません。そこで活躍しそうなのが、人工知能による自動運転とクラウドによる運行管理です。運転手はスマホに出発地点と着陸地点、希望日時を入力、サーバーが判定してオートキーを出すシステム。空は障害物が無いので、すべての飛行体の運行が管理されていれば、比較的安全かもしれませぬ。未来のことを考えるのは楽しみです。過去のことを書くこと、事実と違うなどとクレームが来ることがありますが、未来は誰もわからないし・・・

来年こそは

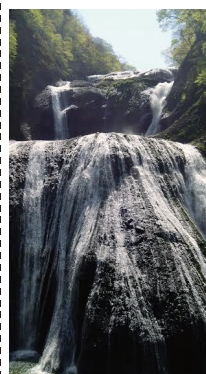
事務 田所弓佳

みなさんは五月のゴールデンウィークはどう過ごされましたか？私はまだネモフィラを直接見たことがなかったもので、ひたひたな海浜公園にネモフィラを見に行こうと考えていました。ですが、人が多いとテレビで放送していたので行くのを断念し見に行けず(泣)。見に行けるのをすごく楽しみにしていたので残念です。来年こそは見に行けるといいな！*

袋田の新緑

看護助手 柴田 さち子

七年ぶりに、袋田の滝にドライブに行きました。片道約二時間。袋田の滝は日本三名瀑の一つに数えられ、高さ120m、幅73mの大きさを誇ります。滝の流れが四つの大岩壁を流れ落ちることから、別名「四度の滝」とも呼ばれます。ちよこっしドライヴでリフレッシュできました。アユの塩焼きもおいしかったです。



噛めば噛むほど味が出るもの

薬剤師 石川 恵

気温の差が大きい日々が続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。まあ「季節の変わり目」ということで私も決して好調ではありませんが、とにかく暖かくなってきたのはうれしい限りです。さて、今回は本の話。石川家は本好きな人間が多く、廊下の壁一面本で埋め尽くされています。しかしそのほとんどが哲学や医学の専門書。そして廊下を過ぎ、突き当りの私の部屋に入ると一転漫画喫茶。

お前は一体何歳だ、というツツコミは死ぬほどされているのでいったん置いておいて、私の部屋の漫画はまあ国民的人気漫画などもありつつ、その大半はおそらく相当詳しい人でもわからないのではというマニアックなものです。よく「どうやって見つけたの?」などと言われますが、基本的に漫画はビニールで閉じて売られているので表紙の絵と裏面のあらすじでのフィーリングです。試しに一冊だけ買ってみて、一巻を読めば大体ビビッと電流が走るものとそうでないものとはっきり分かります。

しかし面白いことに、そのコレクションの中でも本当に大好きな漫画は、最初は全然ピンと来なかった。これは音楽でも言える事なのですが、最初は「なんだこれ?」と思うのですが徐々に良さがわかってきてもう虜。何事も第一印象で判断してはいけないうえ、と実感する毎日です。

続報!

看護師 高山 早苗

先月お伝えしたわが家の蘭の花はその後次々と開花し、一つ枯れてしまいましたが全部咲きました。これからはもうずっと、何年たっても蘭の花が三年ごとに咲くように願ひながら、そして二人とも元気で過ごせたらいいなと思います。

